



3年国語 授業の見所

- ①『故郷』のよさを表したレーダーチャートを比較し、学習の見通しをもつ。
- ②フィッシュボーン図を用いて考える視点を明確にして各自で考えを整理、コラボノートを用いて意見交流して、考えを深める。

つかむ	追究する	まとめる
✓	✓	

<本時のねらい>

『故郷』がなぜ名作であるのかについて記述を基に話し合うことを通して、作者の意図について説明することができる。

【つかむ】①レーダーチャート（アンケート機能）

生徒は前時まで「故郷」について感じたことを、次の4つの視点でレーダーチャートにまとめました。

- ①情景描写 ②心の中の言葉（決意や願い）・心情
- ③セリフの言葉 ④表現の工夫（文末表現や表現技法）

これらの比較をもとに本時の課題について考える見通しをもっていました。



【追究する】②フィッシュボーン図とコラボノート（思考ツールと共同編集）



個・班

フィッシュボーン図に個人の考えを書いた後、班で意見交流をしました。そして班の意見をコラボノートにまとめました。



全体

意見交流の際、教師が問い返し、自分の考えに対する新たな気づきを促していました。他の視点で考えた友達のコラボノートを確認する姿も見られました。

3年音楽 授業の見所

- ①各自のICT端末で自分のペースで動画を視聴！
- ②考えたことをコラボノートにまとめてグループ内で共有、意見交流！

つかむ	追究する	まとめる
	✓	

<本時のねらい>

歌詞の意味や旋律の特徴について聴き取り、「東遊びの数々に」のよさや美しさがどのようなところにあるのかを話し合う活動を通してそのよさや美しさを味わうことができる。

【追究する】動画視聴・コラボノート



ヘッドフォンを付け、自分のペースで動画を視聴しています。気になるところを聴き返すことで、新たな気づきを得ていました。

ここ聴いて！ここ！

なんでゆっくりなんだろう？強調するなら速くしたくない？

テンポを遅くすることで逆に強調しているんじゃない？

実際に音を聴きながら気づきを確認することで、自分が感じたよさや美しさを友達と共有していました。その上で、それぞれの思いや考えを深めながら能に興味をもつ生徒の姿が見られました。



対話で生まれたキーワードや生徒の発言を全体で共有

〈振り返り〉
よいところを探すことも、そのよさを話し合っ共有し、新たな発見ができるのも、能のよさだと思いました。

2年道徳 授業の見所

- ①友達の考えや今までの経験から、資料について考える見通しをもつ。
- ②資料を通して考えたことから、これからの生活についてコラボノートに記入し、考えを共有する。

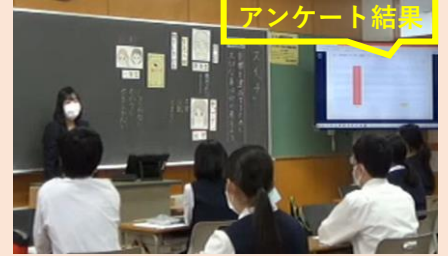
つかむ	追究する	まとめる
✓		✓

<本時のねらい>

主人公が坂ノートを頼ってしまった理由を考える活動を通して、自分の目標達成に向けて必要なことを考える。

【つかむ】①コラボノートとアンケート機能

- 生徒は「クラスの友達が目標に対して取り組む姿勢」や「一生懸命頑張ったのに失敗した経験やうまくいかなかった経験」についてのアンケート結果から、自分の経験と資料の内容を重ねて、価値理解に向かうことができました。



【まとめる】②コラボノート

T：目標を達成するためにどのような気持ちで取り組んでいくかを書こう。
(青の吹き出し)

S1: テストで良い点を取るために、コツコツ努力していく。

T：頑張っているけれどうまくいかないとき、本当にその気持ちで続けられるの？どう解決していくか書こう。(赤の吹き出し)

S1: テストが良くなかった時は次にどう生かせるか、失敗から学んでいく。



- 生徒は資料を通して考えたことを基に、自分の目標を達成するためにこれからどのように取り組んでいくかをコラボノートに記入しました。教師は生徒とやり取りしながら全体で共有しました。振り返りでは本時を通して考えたことをワークシートにまとめました。

1年総合 授業の見所

- ①小学校低学年に向けての絵本をプレゼンテーションソフトで作成し、途中経過を発表する。
- ②コラボノートでよい点や改善点を確認する。

つかむ	追究する	まとめる
	✓	

<本時のねらい>

クラスの友達にやりたいことを見せ、意見をもらう活動を通して、新たな課題に気づき、対象相手をより意識したよりよい活動にしようとする。

【追究する】①プレゼンテーションソフト（発表）

T：小学校低学年になったつもりで発表を見ていこう。

S1: 話している内容が少しわかりづらいかな！？

【追究する】②コラボノート

T：発表した班にアドバイスをしてくれるかな？

ピンク付箋はよいところ、水色付箋は改善点で！

S2: 小学校2年生でもわかると思う。

S3: 背景と文字の色が似ていてわかりづらいかな。

- 教師が生徒の発表について発問したり、ICT端末を活用し生徒の意見やアドバイスを取り上げ共有したりしたことにより、生徒は発表班の課題に向き合うだけでなく、自分たちの班の課題にも気付くことができました。



ICT端末は生徒の思考を可視化します。榛東中学校では表出した考えを基に対話によって思考をより深めていくことを目指し、全教科で取り組んでいます。

